

新型コロナウイルス感染症の影響により、『けあまねTOKYO』2020年夏号は休刊となります。そのため今回は特別版をお届けします。

メッセージ

「これからも新型コロナウイルス禍を戦う介護支援専門員の皆様へ」

特定非営利活動法人
東京都介護支援専門員研究協議会



理事長
小島 操

今年、私たちは家族の卒業や入学を祝う時間も、桜の花を楽しむ時間もなく、「ステイホーム」の中で、感染症の収束を願いつつきました。しかし新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は感染者が増え続け、その対応のために医療機関や医療従事者の方たちが献身的に自らの職務を遂行されていたことに心からの敬意を表したいと思っています。

同時にその間、介護現場でもサービスを止めずに高齢者の生活を支え続ける努力がなされたことも忘れてはなりません。私たち介護支援専門員のマネジメントも感染防止を徹底しながら止まることなく動き続けていました。そのことを私は誇りに思っています。

感染症への大きな不安

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、これまでになく新しい感染症でした。連日の報道

を通じて多くの情報が洪水のように生活の中に流れ込んできました。同時に、高齢者や基礎疾患がある人の死亡率が高いという情報が流れ、有名人の死去がより不安をかきたてました。利用者や介護家族にとっては思いがけない恐怖が日常の中に起こったと言っても言い過ぎではなかったと思います。

「訪問」「面談」を阻む感染予防の障壁

介護支援専門員のケアマネジメントプロセスにおいても、訪問や担当者会議への遠慮や拒否が始め、介護支援専門員自身もどういう基準をもって訪問を決めるか等、迷いが生じ始めました。ケアマネジメントを行う上での相談業務が行いにくくなっていることは否めないことでした。これが長期に及ぶ場合、高齢者の生活把握がしにくくなること、そしてそれによる弊害も十分に起こりうることを予測され、それぞれにいろんな工夫がなされたと思います。

行政に現場を伝えて現状を乗り切る

都内ではこのころに、いくつかの地域の介護支援専門員の団体と保険者がいち早く現状把握や意見交換を行っています。このような時こそ、都民の健康のため、また介護支援専門員の安全と専門性の保持のためにも、現状の情報共有を含めて行政としっかりと意見交換を行っていくことの意味は大きかったはずで

地域で地道な努力を積み上げて介護支援専門員の組織づくりが行

われてきたからこそその力強さがあったと思います。その関係づくりが防護物品の支給などにつながっていったところもあります。

見えてきた課題を解決の方向へ

「最期まで自宅で暮らしたい」という意向を持つ方たちの生活を私たちは支えています。そのために医療と介護の連携のもとケアチームは一丸となっていたはずで

しかし、突然の発熱と言うだけで、今まで入っていたサービスが撤退してしまふことがありました。病院からの退院者に対して、2週間ほどのサービスも入れないと言われた介護支援専門員は少なくなかったと思います。代替えサービスは簡単ではなく、それでも生活をなんとか持続させるためにあきらめない私たちの調整が続きまし

ケアチームとして誰も命が大切です。リスクを少しでも回避するための防護用品の充足や知識と技術の習得など、次の波に向け地域での連携が始まっています。ケアチームへのマネジメントとしても介護支援専門員がその連携の中心にいてほしいと思います。

考えて行動する毎日

「治療法のない感染症」はすべての人の生活を一気に変えていきました。最期まで自宅で暮らしたいという本人の意志さえ、感染症という診断のもとでは思い通りにはならない状況となっています。「この家にずっといたいけれど、感染したらみんな病院に入れられ

て、誰にも会えなくなってしまうのよね」今までになく利用者の言葉を私たちは聞くことになりました。本人の願望を感染症と共に生きる現在、どのようにサポートしていけるか大きな課題です。

そういう意味でも、今回の新型コロナウイルス禍で突き付けられた数々の課題は、もう一度みんなで考え直すきっかけにできればと考えます。

新型コロナウイルス感染症への対応は誰もが初めての経験です。私たちに課せられたのはどんなときにも利用者の立場に立ち、自らの命も守りながらその時々「考えて行動する介護支援専門員」であることだと思えます。状況の判断を怠らず、感染症の不安の中にある利用者のために相談援助の力を発揮していただくことを願います。

WEB総会へのご参加

ありがとうございます

本年度の総会は、このような状況下で初めてWEB配信をさせていただきます。会員皆様とお会いできなかったのは本当に残念でした。たくさんの方の顔を見ながら「株主総会みたい」にできたほうがいいなあ、と初めて思いました。少し寂しかったです。



定期総会報告

令和2年6月27日(土)14時00分～15時07分。千代田区飯田橋にある東京しごとセンター セミナー室にて令和2年度定期総会を開催し、ZOOM ウェビナーにてその模様を配信致しました。正会員総数1,932名に対し、総会定足数(正会員総数の3分の1以上の出席)を満たす903名(内訳:書面表決766名、表決委任137名)の出席を得て、総会は行われました。総会議長には、正会員の中より今村純一氏が就任し、議事録署名人には岩田有佳乃氏と吉野清美氏が選任されました。小島理事長より感染の不安の中、勤務する介護支援専門員並びに医療職の方々への敬意が述べられ役員紹介の後、審議を行いました。採決の詳細について、以下に記載します。



今村議長

(1) 審議事項

(1号議案)「令和元年度事業報告(案)、令和元年度決算報告(案)及び会計監査報告」



小島理事長

はじめに小島理事長より令和元年度の会活動について厚労省に提言を行った事、感染症の影響を大きく受けた事などを述べ総括しました。続いて牧野雅美副理事長より令和元年度事業報告(案)、蔵本理事より令和元年度決算報告(案)について説明を行い和田監事より事業執行の状況並びに会計処理について適正である旨の監査報告と意見が述べられました。COVID-19の影響を大きく受けた事業報告、決算報告となりましたがそのような状況の中でも出来得る限り計画を実行し黒字決算となったことを会員の皆様に報告すること

はじめに小島理事長より令和元年度の会活動について厚労省に提言を行った事、感染症の影響を大きく受けた事などを述べ総括しました。続いて牧野雅美副理事長より令和元年度事業報告(案)、蔵本理事より令和元年度決算報告(案)について説明を行い和田監事より事業執行の状況並びに会計処理について適正である旨の監査報告と意見が述べられました。COVID-19の影響を大きく受けた事業報告、決算報告となりましたがそのような状況の中でも出来得る限り計画を実行し黒字決算となったことを会員の皆様に報告すること



牧野雅美副理事長

ができました。その後、事前に書面にて寄せられた意見、質問に対し小島理事長が回答し採決となりました。採決の結果、以下の結果を得て議案は可決・承認されました。



和田監事

① 第1号議案

賛成 901名(書面表決764名、委任表決137名)
反対 1名
棄権 1名

(2号議案)「令和2年度事業計画(案)、令和2年度予算(案)」

小島理事長より「緊急事態宣言発令前に策定した事業計画(案)について、現況を踏まえ5月14日の理事会で見直しを行い別紙の形で修正案を添付した。COVID-19の終息が見通せない状況となる中、模索しながら進む1年となる。会員の皆様のご理解、ご協力を得て進みたい。」という言葉と共に活動方針を述べ相田副理事長より令和2年度事業計画(案)、蔵本理事より令和2年度予算(案)についての説明を行いました。計画、予算共に例年とは、大きく異なる環境下での執行となること、委託事業については前年度未実施分の追加実施が見込まれることを説明し採決となりました。下記の結果を得て議案は可決・承認されました。



相田副理事長

② 第2号議案

賛成 900名(書面表決763名、委任表決137名)
反対 2名
棄権 1名

以上、ご報告致します。

事務局・総務担当 蔵本博樹